

なんだ、この不気味なトレードマークは？一見、サムライ風だけど、よく見ると国産不明。でも、クルマを見ると、なんと、全部、日本車じゃありません

コンプリートメーカーCheck!

POSTERT tuning

(旧名: SAMURAI tuning)

日本車チューン専門
メーカー発見!
マイナーカーでもチューン
しちゃうところがエライ!



この内装の決まり方はゲンバラを連想させる。徹底的にカラーコーディネートするのが、好きなんだろうネ。

ROAD STER

フォグ埋め込みのバンパー&ワイドフエンダーでロードスターがボリュームアップ。けっこう激いぜ。



ドイツコンプリートメーカーの強みは、メーカーから直接エンジンのデリバリーを受けられること。日本じゃまず、考えられないことだ。



ショックやブレーキは、ビルシュタインなど、専門メーカーに開発を依頼する。



やっぱ、どこにでもいる洗車オタク、かとおもったら、ワックスの実演。ドイツって、ホント、汚いクルマが少ないんだ。

68のエンジンを積む、500SL、408DSはまずまずだが、57、1800というトルクは、凄すぎるぜ。



BRABUSは、エンジンだけでなく、内装チューンもお得意。水牛の革を使った高級のシートも、ラインアップだ。

日の丸チューナー 言いたい放題コメント

牧原道男 トライアル

チューニング
レベルは日本とタイ
歴史の違いが、
驚く~!

シヨ一の形態は違っても、基本的にチューニングの方向性は同じやね。視覚に訴えるエアロチューン、感覚に訴える機能性チューン、そして両方を備えたコンプリート、その辺の指向性はそんなに変わらない。たとえばBRABUSのベンツにのせてもらった時、そのドライバが楽しそうにチューニングの説明をしてくれたんだ。古今東西、好き者が集まれば、コミュニケーションが生まれるものなんやない。まっ、技術的な差はほとんどないことがわかったから、あとは、日本はどう認めるかやろうね。それにはオレたちが率先してみんなを引っ張ってやらな、あかん。ようしや、いっちょやっつたるかい!



PARTS

調子に乗ると即地獄行き!
ニブルブルクリンクは怖くて楽しい
自分で操縦するジェットコースターだ!

ニブルブルクリンク・サーキット。プロドライバーでも、全開で走るときは緊張するといひ、コーナーで悪魔の囁きが聞こえるといわれる、難しいサーキットだ。ここがそういわれるのは、全長22・8

ニブルを取める、アルファのSZ。速いクルマにバシバシ抜かれてしまった。くやしぜ。



これがニブルブルクリンク・サーキット概略図。自然の地形を利用しているのがよくわかる。あまりにロングコースなので、内側に民家がいくつもあるほどだ。

常にシビアだ。ほんのちよつと駐車しただけでも、あつという間にキップを切られてしまう。クルマを停めたかったら、パーキングメーターやパーキングチケットのあるところか、パーキングに入れるのが無難なようだ。

親切だ。そして、何といっても駐車料金がとても安い。例えば、ケルンの大聖堂の地下に位置するような観光地の駐車場でも、1時間でもマルクくらい(おおよそ90円)なのだ。これだけ安く停まるところが沢山あれば、どこでも気軽にクルマで行こうって気になるよな。

で、実際に走ってみると、特に恐ろしい様子はない。しかし、しまった!と思つたときにはもう遅かった。入口からいきなりうねった下りコーナー。しかも、その先はどうなっているかわからない。下ったかと思えば今度は登り。コーナーはほとんどブラインドときているから、アクセルを思うように開けることもできない。頭の中では、事故の文字が渦巻く。おまけに、走行会の連中が後ろからスパンスパンとブチ抜いていくから、完全にバニック状態だ。自分でも情けなかつたが、ニブルの初体験はどう運転したかもわからないまま、とりあえずゴール。さらに2周目には、エンジンが止るといふオマケまでついてしまった。それにしても、自動車メーカーがニブルをテスト